

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：辻谷太・加藤宏樹

vol. 18

2025. 4. 10

みなさんこんにちは。生駒消防署で開催された電車事故を想定した多数傷病者机上訓練が実施されに講師として当院の二川医師、辻谷・加藤が参加しました。



二川医師より「DMAT」に関する講義を行いました。内容として、DMATの概要や活動内容に加え、今年度発生した能登半島地震における当院DMATの活動報告も詳しく紹介されました。



辻谷・加藤による「災害時のトリアージ」の講義を行いました。実際に傷病者を演じてもらい、リアルなトリアージ訓練が行えました。



生駒駅での電車事故を想定した多数傷病者の机上訓練が実施され、消防隊員と共に参加しました。今回の訓練で病院と消防をはじめとする関係機関との連携の重要性とお互いの得意なこと、苦手なことなどを話し合える貴重な機会となりました。

この度、生駒消防署が開催する研修に参加し、病院と消防の連携の大切さを改めて認識する機会となりました。今後も、このような研修を消防と協力して行うことにより、さらに万全な救急医療体制が築けると思っております。地域の皆様には安心していただける医療支援が提供できるようにさらに努めてまいります。



ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】をお願いします。
(患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。)

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：太田千夏・加藤宏樹

vol. 19

2025. 4. 10

みなさん、こんにちは。令和6年2月に大阪で開催された DMAT隊員養成研修に、近畿大学奈良病院から医師1名、看護師2名、事務員1名が参加しました。



研修は4日間にわたり、講義に加え、グループワークやシミュレーションを実施。実際にEMIS（広域災害・救急医療情報システム）を操作し、自宅から災害派遣現場までの流れを学びました。充実した研修はあっという間に過ぎ、3日目には各役割に分かれて実技・筆記・EMIS入力のテストも行われました。

4日目の最終日には、他のDMAT I 隊と共同で、SCU（大規模災害時の傷病者搬送拠点）の展開を想定したシミュレーションを実施しました。大規模災害を想定し、次々と搬送されてくる患者に対してトリアージを実施。本部と連携を取りながら、自衛隊の航空機やドクターヘリへ搬送しました。



「SCU展開時には、山根先生がリーダー医師として陣頭指揮を執り、的確な指示を出してくれました!!」



共に4日間の研修を乗り越えた、日本各地のDMAT研修受講者たちです！能登地震や熊本地震を経験した医療従事者もあり、現場のリアルな声や貴重な体験談を直接聞くことができました。

阪神・淡路大震災から30年。あの災害の教訓をもとに、災害医療は常に進化し続けています。DMATといえば、災害の最前線で活動するイメージが強いですが、4日間の研修を通じて、その役割は物資の補充やインフラ整備、被災地の医療職のケア、高齢者施設での支援など、多岐にわたることを実感しました。かつては「瓦礫の下の医療」と言われたDMATですが、現在では、被災地・被災者に寄り添い、「**一人でも多くの命を救う**」という共通の使命のもと、必要とされる支援を考え、実践することが求められています。研修を通じて、状況に応じた柔軟な対応の重要性を学びました。災害拠点病院である当院の役割を果たすため、DMAT隊員の一員として、今後も全力で取り組んでいきます！



医師：(腎内) 山根
看護師：三宅・太田
事務員：木川

無事にDMAT隊員養成研修を修了することができました。これからよろしくお願いします。

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】をお願いします。
(患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。)